

## 聞いててわかる【サンペイ式諄辞】

### Ⅱ前口上Ⅱ

現在の諄辞は一種の「外国語」で、読むのが難しく、まして聞く方は意味がわかりません。

そこで、何とか今の格調を落とさず、なおかつ聞いて意味がわかる文はできないものかと考え、『祭文の手引き』諄辞編を「翻訳」し、試作品「サンペイ式諄辞」を作ってみました。また、付録として「言葉の言い替え一覧」を作りました。

なにしろ古文の知識はありませんから、おかしな部分は遠慮なく三幣にお教えください。皆さんからのご指摘で、バージョンアップしたものをまた、お届けしますので……。

### 【葬儀祓詞】

我らが親におわします天理王命の尊き御前を遙かに伏し拝み奉りて、謹み謹みて白さく。

今宵〇〇様の霊をこの家の仮の霊舎ミタマに鎮め奉らんとするによりて、霊代ミタマシロを始め霊舎又弔いの儀を執り行う斎員サイイン諸々の人に至るまで、もし罪けがれあらば、打払う幣のみそぎの音色のまにまに払い給い清め給いて、弔いの儀（野辺送りの儀）恙なく執り行わしめ給えと、謹み謹みて白す。

### 【みたま「うつし」の詞】

思えば悲し、思えば悔し、〇〇様の前に、謹み敬いて白す。

悼ましくも霊様には、先の頃より末永く健やかならんと身を養いましてありけるを、にわかには患いし病 思いの外ゆゆしき様となりて、はかなくも出直しましぬるは、いとも悔しく、いとも悲しき極みにぞある。さりながら、今更に人の力の及ぶべき事にあらねば、人々事謀ハカリり定めて、定まれる儀式のまにまに、今宵みたまうつしの斎儀サイギ厳かに執り行わんとする様をよしに聞き届け受け取り給いて、霊様には、新たに造り備えるこれの霊代に心静かに安らかに遷ウツリり留まりませと、謹み謹みて白す。

### 【みたま「しずめ」の詞】

これの所を仮の霊舎と清々しく祓い清めて鎮まり給う 〇〇様の霊の前に、謹み謹みて白さく。

人のこの世ははかなく定め難きものとは言えど、霊様の昨日に変わる今日の御姿を見奉りては、驚き嘆かざる者更になし。思えば悲し、思えば悔し。されど、この世の定めと命に限りある上は、明日を弔いの日と定めて、今宵、出直し給いし霊様をこれの霊舎に鎮め奉らくと、御前にお神酒を始め様々な

る物を供え奉りて伏し拝み奉らくを聞き届け受け取り給いて、今より後、子々孫々に至るまで末広がり立ち栄えしめ給えと、謹み謹みて白す。

### 【発葬詞】

これの奥床を仮の喪屋モヤと定めて、しばし置き据え安め奉る〇〇様の柩の前に、謹み嘆きつつ白さく。

霊様には、〇月頃より御身オンミを患いにわかたに床に伏し給いしかば、家人イモトたちは打ち驚き、様々と手立てを尽くし、今ひとたびは御病ミヤマイ癒イえ、御心も和らぎ穏やかとなりて、たすけ一条の道の上に精を出し給わん日のまた訪れる事を、親神にも願ひ祈り奉りてありにしも、与えられし御命オイノチの限りか、その甲斐なく、この月の〇日、御年オントシは〇〇歳を今世の終わりとして、夜明けに漕ぎ出す船の沖に消え行く姿の如く、いともはかなく出直しましぬるは、悲しとも悲しく、悔しとも悔しき極みなりけり。悼ましくも家人イモトたち、親しき人々、憂い嘆くも無理からぬ心の様サマにぞある。かくなる上から悲しみの中にも事謀ハカリ定め、今日を野辺送りの日と定めて今世の終わりの弔いの儀執り行い、永き別れを告げ奉らくと、御前に、お神酒海山野山の幸を始め始め様々なる物を供え奉りて、家人たちは言わずもがな、霊様を知る人相交われる人諸共に霊様の面影を心に浮かべ、ご遺徳を思い偲びつつ伏し拝み奉る様を聞き届け受け取り給いて、お伴トモ仕えるまにまに、心置きなく野辺送りの場に出で立ちませと、謹み謹みて白す。

### 【誄詞】

そのお名前を口にすれば悲しさもいや増す〇〇分教会〇代会長〇〇様の柩の前に、謹み敬い今世の別れを告げ奉るに当たりて、霊様の遺し給えるご功績のあらましを称えて、この野辺送りの場に席を並べる人々と共に偲び奉らくを聞き届け給えと白す。

そもそも霊様は、〇年〇月〇日、〇県〇市に、〇〇様のいとし子と生まれ出で、〇小学校より〇中学校に入り、更に〇高等学校に進み、〇年〇月〇日、〇大学〇部に学びの業を深く広く修め給いき。かくて、〇年〇月〇日には尊きおさづけの理を戴き、修養科〇期を終えましてたすけ一条に努め励み、〇市に向き御教えの理を人に広めて、〇年〇月〇日布教所を設け置き、続く〇年〇月〇日には教会名称の理をも許されてその会長に任ぜられ、常にひながたの道を余す所なく踏み行わんことを御心となし給い、憩う間もなく教え子を教え導き、幾多の苦勞に耐え辛き立場も忍びて、人だすけの道に骨を折り給いしご功績は、挙げて数うべくもあらず。これにより人々には敬い尊ばれ、徳の高き人と仰がれつつ、尚も道の上になめまめしく一筋に勤め励み給いてありけるを、親神のいかなるお計らいか、ふとしたる病思いの外ゆゆしくなりて、遂に〇月〇日〇時、御年〇歳を今世の終わりと、はかなくも出直しましぬるは、悲しとも悲しく悼ましき極みにぞある。

かくなる上から、家人たちは言わずもがな、これの弔いの場に参り集える諸々の人たちと相共に憂い嘆きつつも、霊様の在りし日の面影を偲び奉りて、いとも広くいとも高きご功績のあらましを称え奉りて、偲びごと申し奉らくを聞き届け給へと、謹み謹みて白す。

### 【葬場詞】

これの野辺送りの場に担ぎ据え安め奉る〇〇様の柩の前に、謹み敬いて白さく。

悼ましくも霊様には、昨年の〇月頃より御心地優れず、御身オンミを養いましてありけるを、患いし御病いよいよゆゆしき様となれば、家人たちは寄り集い憂い嘆き、速やかに苦しみを救う手立てはなきものかと、夜を日に継いで見守りつつも、いつかは御心地和らぎ、快き御姿を見んものと、親神に願ひ祈り奉りてありけるを、御命オンチの限りやありけむ、〇月〇日いともはなかく出直しましけるは、悲しき極みと言わむ。悼ましくも、今日よりは霊様のお声聞こえずやなりなむ、明日よりは霊様の姿見えずやなりなむと、雨雲の空の如く暗き心持ちするを、まして妻子家人たちは闇路にともし火を失うが如く、漂う船の舵なきが如く憂い惑い、この心地をば表わす言葉もなく、枕辺に寄り添い足元にひれ伏し、嘆き悲しみ慕い奉るも人の情けの理コトワリなれど、この世の定め、かくてあらねば、今は御教えの定めの儀式のまにまに、今世の終わりの齋儀執り行わんと、御前にお神酒海川野山の幸を始め様々なる物を捧げ奉りて、永き別れを告げ奉らくを心穏やかにまた安らかに聞き届け給いて、これの御墓所ミハカドコロをとわの住みかたとこしえに鎮まりませと、謹み謹みて白す。

### 【告別詞】

これの所を仮の喪屋と定めて置き据え安め奉る〇〇様の柩の前に、謹み謹みて告げ白さく。

人のこの世ははかなく定め難きものとは知れど、悼ましくも、霊様の昨日に変わる今日の御姿を見奉りては、驚き嘆かざる者更になし。

そもそも霊様は、〇年〇月〇日、〇県〇市にて〇様の〇女と生まれ出で、素直にて優しき心根のままに生い立ち給い、古里の小学校より〇女学校に入り、〇年〇月学びの業を終えまして、婦人の心得を残す所なく修め給いき。かくて〇年〇月〇日不思議なる縁エニシのまにまに、〇〇様の妻と迎えられて、夫婦メオトの仲いと睦まじく、心を合わせ力を添えて家の榮えに真心を尽くし給い、御子たちは男オトコ〇人女オンナ〇人を育て上げ、家内イエウチは春風の如くのどかに、照る月の如く安らかに満ち足りて、いや榮えまじき。また教えの道に勤しみ励み、外に人の憂いを聞きては共に憂い、人の喜びを見ては共に喜び、物につけ事に当たりていささかも私心ワタクシココロも分け隔ての心もなく、ひたすら世のため人のためとならん事を心となし給いければ、近き遠き人々も懐き慕

い奉りてありけるに、善き事に災い事の続く世のならいとてか、先頃より御身オンミを患い床に伏し給い、日が経つにつれいよいよ差し迫る様となりて、遂に○月○日を今世の終わりと出直しましぬるは、この心地をば表す言葉もなき程、悔しく悼ましき極みなりけり。

さりながら、人のこの世に生まれ出ずるも出直すも、ことごとく親神の深き思召しによるものなれば、今は息遣いも乱れる心を忍び治めて、今世の終わりの弔いの儀執り行い、家人たちは言わずもがな、席を並べる諸々の人と共に在りし日の面影を偲び奉り、玉串を手を伏し拝み奉る様を、よしなに聞き届け受け取り給いて、御なきがらはこの御墓所の奥深く鎮まりますとも、霊様には、親神の慈しみのまにまに、一日イチニチも早くまたこの世に帰りきませと、謹み謹みて白す。

「火葬の場合」

御なきがらは立ち昇る煙と共に御骨となりて、御墓所の奥深く鎮まりますとも、霊様には、親神の慈しみのまにまに、一日も早くまたこの世に帰りきませと、謹み謹みて白す。

### 【火葬場詞】

悼ましくも霊様には、思いがけぬ御病のためあえなくも出直しまししは、いとも悲しくいとも悔しき極みにぞある。家人たちの心には柩の側に寄り添いひと時も長く仕えまほしかるを、この世の定めとて為すすべもなければ、今日を限りと弔いの儀執り行い終えぬるによりて、御なきがらを納めし柩を障りなく恙なく、これの所に送り護り来て、この野辺の空しき煙と共に御なきがらは御骨となして、あらためて御墓所の奥深く鎮め奉らくと、それぞれが玉串を捧げ奉りて、永き別れを告げ奉らくと余すところなく受け取り聞き届け給えと、謹み謹みて白す。

### 【葬後霊祭詞】

これの所を仮の霊舎と定めて鎮め奉る○○様の霊の前に、謹み謹みて白さく。悼ましくも、生涯をただ一筋にたすけ一条に真心の限りを尽くし給いて、人皆にお徳を懐き慕われませし霊様の思い設けぬ出直しは、家人たちは言わずもがな、霊様を知る人の限り等しく嘆き、心さびしき中にこのとわの別れを告げ奉り、いとも厳かに弔いの儀執り行い終えぬ。かくなる上から、この家の内外ウチノトを祓い清めて、弔いの後ノチの御祭執り行い、霊を慰め奉らくと、御前にお神酒を始め様々なる物を供え奉りて、在りし世の面影を偲び、ご遺徳を称えて伏し拝み奉らくと、御心安らかに聞き届け受け取り給いて、今も行く先も、御教えの益々の栄えは言わずもがな、家人たちを幸多く更に勢いに満ちて立ち栄えしめたまえと、謹み謹みて白す。